「奥浅草だより」第 27 号　2019 年 7 月 5 日

吉原の歴史 400 年

湯屋も栄えた遊郭のはじめ　吉原遊廓の寿命は、1657 年に開業した現在の台東区千束の新吉原から始まり、1956 年の売春防止法施行までとすると 300 年です。しかし吉原遊廓の原型は、1618 年にいまの中央区人形町で開業した元吉原にあったのです。現在、地図に残っている 1657 年開業の千束の地割区域が、新吉原です。しかもなお、太平洋戦争後の売春防止法の後も、この地区は日本最大のソープランドとして営業を続けています。

風呂屋は品格を落とす？　幕府は、江戸の中心地が開発されるに伴い、公認の遊郭を浅草の奥の田んぼの中に移すことにしました。これが現代まで続く新吉原です。遊女屋の移転に際しては、土地の面積を 1.5 倍にする、移転金を出す、など優遇措置を講じました。元吉原の営業は 40 年しか続きませんでしたが、吉原遊廓の原型がつくられたという意味で重要です。その当時の遊女屋は、妓楼と湯屋と二種類あり、湯屋は風呂屋を兼ねた庶民的なもので、浮世絵にもよく残っています。しかし勢力の強い妓楼主らに押され、新吉原に移転する条件として湯屋は許可しないということになったのです。

ソープランドの復権　話は跳びますが、1945 年の敗戦後すぐ公認遊郭は廃止となり、働く女性たちの抱える借金も帳消しとなりました。その後 10 年近い赤線時代を経て売春防止法が施行されると、旧遊郭地域が風営法に則る風呂屋に回帰することになったのは皮肉です。この地区には現在、140 軒余りの店があり、客引きは禁止なので最寄駅からタクシーなどで客の送迎を行っています。遊郭は、江戸時代は奉行所、明治以降は警察の監督下にありましたが、現在は警察と保健所が監督者です。そして今、湯屋からソープまで数え上げるとちょうど 400 年になります。

～・～

この奥浅草だよりは『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後、話題を拾って不定期に発行しております。
サノックスのホームページでもご覧いただけます。　http://www.sanox.co.jp

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子